

あなたの農業経営をサポートします。

# アグリいしかり

石狩市農業総合支援センター通信  
第5号 2010. 9月発行



ミニトマト収穫体験

8月28日・29日(土・日)の2日間、高岡施設園芸生産組合・組合長、越後浩義さんのミニトマトビニールハウスでモニターを対象とした収穫体験を実施しました。連日最高気温30℃と厳しい暑さの中でしたが、ハウスで栽培された甘いミニトマトを口にして皆さん満足していました。

### 主な内容

・新たなブランド化試験圃場について

### 若手農業者の意見交換会が開催

6月30日、J A いしかり本店で若手農業者を対象とした初の意見交換会が行なわれました。  
講師は番屋の湯浜梨かふえのオーナーで北海道フードマイスター、野菜ソムリエの資格を持つ木村光江さんで「石狩農業の魅力を再発見」をテーマとして若手農業者15名を対象に講演しました。  
木村さんは出席者に「独自の栽培方法や品種の取り組み、パソコンを活用したPR、通信販売を行なっているか」などをアンケートに記入してもらいながら進めていき、最後に「石狩は札幌と  
いう大消費地に近く需要が高い。若手農業者が中心となりもつと石狩ブランドを外部に発信して欲しい」と訴えていました。



### 高岡地区地域づくり事業について

当支援センターの事業計画の一つに「地域づくり事業」があります。各地域に将来を見据え持続可能な「もうかる農業」を実践するため、その地域の進むべき方向を農業者とともに検討して実践することを目的として生振、高岡地区をモデル地域として取り組んでいます。そこでミニトマトの栽培が盛んな高岡地区で、ミニトマトをもっとPRするための一環として、収穫体験の可能性に向けてのモニター調査を実施しました。

8月28日(土)・29日(日)の2日間で40名の方に協力してもらい、約30分の収穫体験を行なった後、アンケートに回答してもらいました。今後集計したアンケートを基に生産者と協議を重ねていきたいと考えています。



アグリいしかり発行元 石狩市農業総合支援センター  
☎ (0133) 66-3345



前回第4号の表紙でもお知らせしましたが、石狩地域の特性を生かし、クリーンで高収益な野菜を試験栽培して、新たなブランド化としての可能性となる野菜を地域に普及させていくことを目的とした「新たなブランド化事業」の試験圃場が八幡1丁目415番地4にあります。支援センター職員で管理をしており、栽培品種85種類で珍しい品種もあるため、各団体からの視察も数多くされています。一部の作物については、JAいしかり地物市場に出荷され販売されています。今後はさつまいも、落花生等を来月中旬に試食を兼ねた販売も予定をしています。来年も継続していろいろな作物の栽培を続けていきたいと考えています。



試験圃場の全景



JAいしかり役員の視察



5 アイスプラント



直売場での販売

■栽培作物の一例



2 ハマボウフウ



④ 落花生



⑦ さつまいも

